

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

資料1

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値						目標値 (令和5年度)	達成状況	進捗状況
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
1 瑞浪市の 風土の基 盤である 里地・里 山や河川 等水辺の 維持・保 全を図り ます		地元の農畜産物を食べるように心がけている市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		農林課	72.8%	69.5%	55.7%	56.6%	54.1%	50.8%	77.4%		農産物等直売所を拠点に地元の農畜産物のPRを実施しています。また、令和5年度には直売所隣接地にパーベキュー場を開設し、更なる地産地消の推進に努めます。
	① 里山の保全 と活用	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律に基づく被害防止計画を策定し、鳥獣被害対策実施隊による加害鳥獣の駆除を行います。	年間被害額	農林課	116.1万円/年	112万円/年	186万円/年	95万円/年	306.8万円/年	133.4万円/年	0円/年		令和2年度と比較して、大幅に減少しています。下段の被害防止計画駆除頭数と岐阜県の調査捕獲頭数の合計も令和2年度より減少しているため、個体数の減少が影響しているのではないかと考えられます。被害報告は依然としてあることから、今後も引き続き、防護柵等の補助及び捕獲強化を行います。
			被害防止計画駆除頭数	農林課	700頭/年	681頭/年	686頭/年	98頭/年	125頭/年	142頭/年	700頭/年		従来実施している農作物被害防止等を目的とした有害鳥獣の捕獲に加えて、平成30年度に発生した豚熱(CSF)により、岐阜県が野生イノシシへの経口ワクチンの散布及びその効果確認のための調査捕獲を実施しています。そのため、瑞浪市の有害鳥獣捕獲数は減少していますが、岐阜県の調査捕獲と合計して、令和3年度は352頭捕獲しました。
	② 食と生命を 支える農地 の保全と修 復	農産物等直売所出荷登録者数を増やします。	登録者数	農林課	189人	190人	196人	201人	197人	203人	230人		JAが実施する野菜づくり塾を通じて出荷者を募集することで、新規出荷者数は、令和2年度から11人増加しました。一方、高齢化や転出等により5人減少しましたが、出荷登録者数は、合計で6人の増加となりました。今後も令和5年度のパーベキュー場のオープンへ向けて野菜づくり塾等に周知を行うことで、出荷登録者の増加を図っていきます。
		優良農地の現状を維持若しくは面積を増やします。	ほ場整備面積	農林課	389.0ha (累計)	395.24ha (累計)	400.00ha (累計)	402.43ha (累計)	407ha (累計)	407ha (累計)	406.5ha (累計)	◎	岐阜県が実施主体となり、鶴城ほ場整備事業が実施されており、令和2年度でほ場の整備が完了しました。
	③ 地域の水循 環の保全と 修復	所有する森林に対する補助事業等を活用し、間伐等の整備を行います。	間伐面積	農林課	556.27 ha (累計)	672.08ha (累計)	779.78ha (累計)	916.88ha (累計)	967.88ha (累計)	980.88ha (累計)	800.00ha (累計)	◎	ぎふ森林環境税を活用した事業や、林業経営者による間伐及び皆伐を実施しており、目標値を達成しました。
		ため池整備事業を活用した農業用ため池の整備を行うとともに、災害防止のため、利用のなくなったため池の廃止を行います。	整備及び廃止件数	農林課	廃止措置 未実施	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	2箇所	未利用ため池の調査結果に基づき令和元年度以降順次廃止		令和3年度に2箇所のため池を廃止し、令和4年度にさらに2箇所の廃止を予定しています。また、耐震化工事については、桜堂ため池が現在工事中であり、令和4年度中に岩倉ため池の工事着手を予定しています。
	④ 多様な動植 物の生息・ 生育環境の 保全と創出	生物多様性の保全のため、特定外来生物の調査や駆除を行います。	オオキンケイギク 駆除重量	環境課	90kg/年 ※乾燥後の重量 になります	190kg/年 ※乾燥後の重量 になります	970kg/年 ※乾燥前の重量 になります	1,290kg/年 ※乾燥前の重量 になります	3,920kg/年 ※乾燥前の重量 になります	940kg/年 ※乾燥前の重量 になります	1,500kg/年 ※乾燥前の重量 になります		令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響により土岐川河川清掃が中止となったため、5～7月にかけて職員及びボランティアによる抜根作業を実施しました。今後も土岐川河川清掃時に啓発等を行い、駆除拡大を図ります。
2 市民一人 ひとりが 環境に配 慮し行動 することで、 生活の質の 向上につな げます		ごみの4R活動に取り組んでいる市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		環境課	76.4%	77.6%	68.6%	72.5%	79.9%	78.2%	81.0%		割合は横ばいで推移しており、引き続き広報等で廃棄物減量の周知を図ります。
		省エネルギー・新エネルギーへの取組みをしている市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		環境課	50.0%	51.2%	49.0%	47.8%	49.7%	47.0%	59.1%		令和元年度から「瑞浪市エネルギー利用最適化事業補助金」にて、蓄電システム、次世代自動車用充電システム(V2H)等に補助金を交付しています。また、令和4年度に、国、県の交付金・補助金を活用した「瑞浪市太陽光発電設備等設置費補助金」の募集を開始しました。引き続き広報や環境フェア等で周知を行い、普及を推進していきます。
		水洗化推進により、市内の川、身近な水路がきれいになったと感じている市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		上下水道課	63.5%	64.8%	71.4%	65.3%	67.6%	64.5%	66.3%		検針の際に下水道の接続や合併処理浄化槽の転換を依頼する文書を配布していることに加え、広報で呼びかけをしています。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を国・県の補助基準額に上乗せることで水洗化を促進しています。
	① 循環型社会 づくりの推 進	資源ごみリサイクル率の向上に努めます。	リサイクル率	クリーンセンター	21.2%	20.8%	20.5%	19.6%	20.1%	20.2%	26.0%		平成28年度と比較して、1.0%減少しました。しかし、数値の把握が困難なスーパーやドラッグストア等でのリサイクルも普及しており、市民全体のリサイクル意識は向上していると考えています。また、令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響による集団資源回収の中止といったマイナス面もありましたが、今後も引き続き、ごみ資源分別アプリなどの周知強化及びごみ分別出張講座の開催等により、市民のリサイクル意識向上に努めます。
		可燃ごみ・不燃ごみ処理量の削減を進めます。	焼却量	クリーンセンター	10,499t/年	10,350t/年	10,446t/年	10,460t/年	10,271t/年	10,115/年	10,000t/年以下		平成28年度と比較して、3.6%処理量が減少しました。主な要因は、新型コロナウイルスによる経済活動の減少によって廃棄物が減少したものと考えられます。また、令和4年4月には、生活系一般廃棄物のごみ処理手数料の改定の実施しました。今後、さらなる可燃ごみ処理量の削減を進めて目標達成に努めます。
			埋立量	クリーンセンター	2,185t/年	2,486t/年	2,296t/年	2,506t/年	2,918t/年	1,953t/年	2,000t/年以下	◎	平成28年度と比較して10%埋立量が減少しました。前年度から大きく減少した要因の1つとして、令和3年10月に事業系一般廃棄物と産業廃棄物の処理手数料を改定しており、適正な負担や排出抑制等につながっていると考えています。令和4年度からは、不燃物最終処分場に持ち込む廃棄物の総量規制を実施し、埋立量の削減を図っています。
		使用済小型家電回収品目の拡充をします。	回収品目	クリーンセンター	15品目	22品目	22品目	23品目	23品目	23品目	23品目	◎	平成28年度と比較し、8品目増加し、目標値である23品目を達成しました。
	② エネルギー 循環の効率化	公共施設におけるCO2削減に努めます。	削減率	環境課	△3.9% (平成25年度比)	+2.2% (平成25年度比)	△2.0% (平成25年度比)	△17.1% (平成25年度比)	△23.6% (平成25年度比)	△23.1% (平成25年度比)	△10.0% (平成25年度比)	◎	これまでに、クリーンセンター等の高圧電力を使用する施設における電力会社の見直しにより、電力使用に伴う二酸化炭素排出量が大幅に減少しています。また、スーパーエコスクールに認証された瑞浪北中学校が令和元年度にゼロエネルギー化を達成するなど、脱炭素化に向けた取組が行われています。
	③ 水質浄化対 策の推進	水洗化率の向上に努めます。	水洗化率	上下水道課	81.24%	82.20%	82.70%	83.00%	83.10%	83.30%	90.00%		検針の際に下水道の接続や合併処理浄化槽の転換を依頼する文書を配布していることに加え、広報で呼びかけをしています。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を交付することで水洗化を促進しています。
	④ 健全な生活 環境の保全 対策の推進	空き家・空き地バンクが活用されるよう努めます。	成約件数	市民協働課	29件 (累計)	38件 (累計)	41件 (累計)	45件 (累計)	50件 (累計)	52件 (累計)	100件 (累計)		空き家・空き地バンクによる利活用を推進するため、移住定住ポータルサイトを新たに開設し、物件情報をより見やすくリニューアルしました。令和4年度より空き家等改修補助金制度を見直し、より利用しやすい制度に改正したほか、各まちづくり組織と連携し、空き家バンクへの登録を促す活動を行っています。

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値						目標値 (令和5年度)	達成状況	進捗状況
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
3 瑞浪市らしい、風土を活かし人とのふれあいができる文化環境を創出します		自分のまちに誇りをもてる、魅力のあるまちなみだと感じる市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		都市計画課	45.4%	45.3%	43.7%	49.9%	46.8%	43.4%	53.7%		公共施設里親制度を積極的に活用してもらい、市民と共に都市公園の環境保全および維持管理に努めています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を自粛する団体、利用者の高齢化により、活動回数を減らざるを得ない団体もあり、活動に対する温度差が団体間で生じています。高齢化については、登録団体と連携して、若い世代の利用者数の増加を図り、継続した保全活動の実施に努めます。
	② 瑞浪市らしい地域資源の保全と活用	中山道(大湫宿含む)に関する観光に取組みます。	ボランティアガイド利用者数	商工課	1,131人/年	2,059人/年	1,954人/年	1,597人/年	156人/年	1,089人/年	4,500人/年		新型コロナウイルスの影響により令和2年度末からガイドの受付を停止していましたが、令和3年7月から案内が再開されました。JR東海さわやかウォーキングといったイベントの開催により、令和2年度と比較し利用者数が大幅に増加しました。引き続き感染症対策を十分施し、利用者の増加を図ります。
		市内の指定文化財の指定件数の増加に努めます。	指定件数	スポーツ文化課	106件(累計)	107件(累計)	108件(累計)	106件(累計)	105件(累計)	106件(累計)	120件(累計)		7月28日に「大湫神明白山神社例祭・山車」行事が民俗文化財(無形)に指定されたため令和3年度は1件の増加となりますが、平成28年度と比較すると累計件数に増減はありません。目標を達成するため引き続き市内において文化財の調査を行っていきます。
	③ 愛着のあるふるさとづくりの推進	文化施設・歴史案内等ボランティアによる講座等の開催により、市民が地域の歴史・文化と親しむ機会の創出に努めます。	ボランティアガイド登録者数	商工課	29人	22人	21人	20人	24人	22人	65人		ボランティアガイドガイド登録数に大きな変動はありませんでした。引続き、事務局(地域交流センターときわ)及びかたりべの会(スポーツ文化課)と連携し、情報提供を行う等ボランティアガイドの募集を継続します。
4 市民の誰もが参加でき、継続性のある計画の推進体制を実現します。	① 行政と市民との協働体制の整備	里親制度による、公共施設の美化、保全活動を行う市民活動団体に対する支援を行います。	都市公園登録団体	都市計画課	18団体	17団体	19団体	18団体	22団体	22団体	23団体		昨年度の実績報告時点から、団体の里親登録に変更はありませんでした。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を自粛する団体や、高齢化を理由に活動回数を減らさざるを得ない団体もありました。
			市道登録路線	土木課	131路線	124路線	156路線	166路線	166路線	176路線	132路線	◎	里親制度登録数は令和2年度から10路線増加しました。土岐川清掃中止による清掃機会の減少や里親制度周知の効果により、登録数が増加したものと考えています。
	② 環境教育・体験学習の推進	環境学習の機会創出に努めます。	環境学習実施回数	環境課	10回/年	9回/年	8回/年	11回/年	1回	1回	13回/年		新型コロナウイルス感染症の影響により、回数が大幅に減少しています。感染症の動向を踏まえ、出前講座の実施回数増加を図ります。
		環境フェアみずなみを開催することで、市民の環境意識の向上に努めます。	入場者数	環境課	600人/回	700人/回	550人/回	1,000人/回	—	—	1,600人/回		令和3年度は新型コロナウイルスの影響により開催を中止しました。令和4年度はリサイクル食器(Re-食器)をテーマとし、SDGsの視点を取り入れた環境フェアの開催を予定しています。
		自然観察会を開催します。	開催件数	スポーツ文化課	9回/年	9回/年	3回/年	6回/年	13回/年	13回/年	10回/年	◎	自然観察を兼ねたウォーキングや学校への出前講座を実施しており、目標を達成しています。
	③ 事業所の環境保全意識の向上	事業所に起因する悪臭や水質汚濁等の苦情に対し、原因及び対策に対する啓発と指導を継続していきます。	苦情件数	環境課	2件/年	6件/年	2件/年	3件/年	3件	6件	0件/年		苦情があった際に、騒音・振動や悪臭の測定を実施しています。基準を超過していない場合でも相談を受けますが、原因者が特定できる場合は協力を依頼しています。